

英語活動学習指導案

令和4年5月31日(火) 第1校時 第3学年1組(プレイルーム)

【単元】もっと自分のことを知ってもらおう！～持ち物しょうかい～

考察	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
育成を目指す資質能力	<ul style="list-style-type: none"> 自分の持ち物の発表をする際に用いる英語の音声やリズムについての気付きや慣れ親しみ 	<ul style="list-style-type: none"> A L Tに自分のことをより知ってもらうために, 自分の持ち物について, 英語表現の選択・組合せをし, 英語を用いて持ち物の特徴を分かりやすく伝える力 	<ul style="list-style-type: none"> A L Tに自分のことをより知ってもらうために, 英語を用いて相手に伝わるように工夫しながら, 自分の持ち物について伝えようとする態度
子どもの実態	<ul style="list-style-type: none"> これまでに, 好きな物を伝える際に用いる"I like~."の英語表現に慣れ親しんできている。 「ゲーム」や「スマートフォン」など身の回りの物を表す英語表現は知っているが, 日本語の音声と英語の音声の相違点に気付き, 区別して発音している子どもは少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> "I like~."の英語表現と動物や果物の英語表現の選択・組合せをし, 相手に自分の好きな物について伝えられるようになってきている。 持ち物の発表をすることは, "I have~."の英語表現や数, 身の回りにある物の英語表現や形容詞など, 複数の英語表現の選択・組合せをする必要があるが, 複数の英語表現の選択・組合せをすることに困難を感じる子どももいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 英語を用いて相手に伝わるようにアイコンタクトや声の大きさを工夫しながら, 自分の好きな物を発表しようとしてきている。 相手には, 自分の考えや気持ちを分かりやすく伝えられると考え, 英語表現を用いて自分の考えや気持ちを表現できることに満足してしまっている。
価値	<ul style="list-style-type: none"> 愛着のある持ち物の発表は, 話し手が自分のことを印象的に伝え, 自分のことをさらに知ってもらうために適している。また, 友達の愛着のある持ち物の発表は, 聞き手にとって共感しやすく, 理解しやすい。これまでの学習を通して, 互いの好みを知りつつある子どもたちとA L Tが, 自分の持ち物とその特徴を伝え合うことにより, これまで以上に互いのことを知ることができる。よって, 本単元の学習を通して, 子どもたちはもっとA L Tとコミュニケーションを図りたいという思いを高められる。 自己紹介に自分の持ち物の発表を取り入れることにより, 身の回りの物を表す英語と日本語の音声やリズムの相違点に気付ける。 「すごろくゲーム」や「メモリーチェーンゲーム」で英語表現を繰り返し聞いたり, 発音したりすることにより, "I have~."や数, 形容詞の英語表現に慣れ親しむことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 持ち物の発表には, "I have~."と数, 身の回りにある物, 形容詞が含まれるため, 複数の英語表現を選択・組合せをして伝えることができる。 発表構想シートを用いてグループ内で英語表現を構想することにより, 友達同士で反応(質問・助言)をし合えるため, 持ち物の発表をする際に用いる英語表現が少しずつ増えていきながら, より分かりやすく自分の考えを伝えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループ内で発表をし合うことにより, 友達から反応を得ることができるため, 英語表現を分かりやすく改善するきっかけを得られる。 A L Tをコミュニケーションの相手とし, 発表後にA L Tから, 持ち物を紹介する英語表現についての助言を得られることにより, 改善した英語表現のよさを実感し, 自信をもてる。
見方・考え方	<p>英語やその背景にある文化を捉え, A L Tへの自己紹介の場面で, 自分のことをより知ってもらうために, 自分の持ち物について数や特徴等を伝えるというコミュニケーションを図る目的や相手の反応に応じて, 英語表現や伝え方の選択・組合せをすること。</p>		
今後の学習	<p>4年「家ですることを紹介しよう」において, "I play~. I watch~. I eat~."等の英語表現を用いて, 自分の日課の発表をする学習へと発展していく。</p>		

指導と評価の計画

目標	A L Tに自分のことをより知ってもらうために、相手に伝わるように工夫しながら、自分の持ち物とその特徴の発表をすることができる。		
評価 規準	(①知・技)身の回りの物や数を表す英語と日本語の音声やリズムの相違点に気付いている。 (②思・判・表) A L Tに自分のことをより知ってもらえるように、英語表現の選択・組合せをし、自分の持ち物とその特徴の発表をしている。 (③主体的態度) A L Tに自分のことをより知ってもらえるように内容や伝え方を工夫しながら、自分の持ち物とその特徴の発表をしようとしている。		
言語 材料	number / 1~20/ My name is ~. / I like ~. / I have ~. / It's ~. book / bicycle / video game / soccer ball / tennis racket / cute / big / small / fun / cool / exciting / beautiful / wonderful / interesting / colors		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点 評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
つか か む	1	○A L Tの持ち物の発表をするプレゼンテーションを見聞きし、試しの活動に取り組み、個人の課題と学級全体の単元の課題 (Unit Goal) をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> Unit Goal ギャビン先生に自分のことをもっと知ってもらえるように、自分の持ち物の発表をしよう。 </div>	○自分の持ち物とその特徴について英語を用いて伝えることの難しさに気付けるように、自分の持ち物の発表をする試しの活動をする機会を設定する。 ◇自分の持ち物の発表をする際にできるようになりたいことや伝えたいことについて、発言したり記述したりしている。 <発言・Tryシート③>
追 究 す る	1	○数を表す英語表現と身の回りにある物の英語表現を用いた「すごろくゲーム」*1をし、自分の持ち物とその数の発表をし合う。	○数を表す英語表現を繰り返し聞き、発音できるように、数を表す英語表現を配置したゲームシートを用意する。 ◇数と身の回りにある物を表す英語表現を英語の音声で発音している。 <行動①>
	1	○"I have ~."と数、身の回りにある物を組み合わせた「マッチングゲーム」*2をし、"I have ~."を用いて自分の持ち物とその数の発表をし合う。	○英語表現の選択・組合せができるように、身の回りにある物と数を表す英語表現を提示する。 ◇英語表現の選択・組合せをし、自分の持ち物とその数の発表をしている。 <行動②>
	1	○身の回りの物とその特徴を表す形容詞を用いた「メモリーチェーンゲーム」*3をし、自分の持ち物とその特徴の発表をし合う。	○身の回りにある物の特徴を表す日本語と英語の音声の相違点に気付けるように、日本語と英語の音声を交互に聞き、比較する機会を設定する。 ◇持ち物とその特徴を表す英語表現を英語の音声で発音している。 <行動①>
	1	○"I have ~"や"I like ~.", 持ち物とその特徴を表す英語表現を用いて、A L Tの知りたい情報を加えて持ち物の発表をする。(本時)	○自分の持ち物の発表をする英語表現を改善するきっかけを得られるように、発表構想シートを用意する。 ◇友達からの反応を基に、持ち物の特徴を加えて発表をしている。 <行動②>
ま と め る	1	○A L Tに自分の持ち物について発表をする。	○自分の持ち物の発表をする際に用いる英語表現や伝え方の改善点を想起できるように、前時に記述したTryシートを見直す機会を設定する。 ◇A L Tと目線を合わせたり、持ち物を指したりしながら、聞き取りやすい声の大きさや速さで発表をしている。 <行動①②③>
*1「すごろくゲーム」…さいころを振り、出た目の数だけ英語で数を発音しながら進む。また、止まったマスに書いてある英語表現を発音する。 *2「マッチングゲーム」…ペアをつくり、一方が引いたカードの英語表現を発音する。もう一方もカードを引き、英語表現を発音する。引いたカードが一致したらもらえる。 *3「メモリーチェーンゲーム」…グループをつくり、前に友達が発音した英語表現に自分が加えて発音し、一つずつ英語表現を加えながら伝える。			

本時の学習（5／6時間目）

ねらい グループ内で英語表現を構想し、相手を替えて繰り返し伝えることを通して、ALTが知りたい持ち物の特徴を加えて、自分の持ち物の発表をすることができる。

評価項目 友達からの反応を基に、持ち物の特徴を加えて発表をしている。

<行動②>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スケートボードを2つ持っていることを伝えようと思うよ。 ・ギャヴィン先生は、色やおもしろさ、かっこよさなど、持ち物の特徴について知りたいのだな。ぼくの発表にはその内容が入っていないな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ギャヴィン先生に自分のことをもっと知ってもらえるように、持ち物の特徴を分かりやすく伝えられるようになりたいな。（目的意識） </div> <p>めあて：ギャヴィン先生が知りたいことを加えて、自分の持ち物についてもっと分かりやすく発表をできるようになろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本時までに学習した"I have~."や数、身の回りにある物を表す英語表現の音声を想起できるように、グループで友達と自分の持ち物の発表をし合うよう促す。 ○本時において、色や楽しさといったALTが知りたい持ち物の特徴を加える必要性に気付けるように、JTEが持ち物とその特徴の発表をし、ALTがその内容について反応（質問・助言）するというモデルを演示し、やりとりの内容や加えるとよい内容を問いかける。
<p>2 持ち物の紹介をし合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・"I have two skateboards."という英語を使って、スケートボードを2つ持っていることを紹介してみよう。 ・「かっこいい？」と聞かれたよ。「青い色がかっこいい」って英語で伝えたいのだけど何て言えばよいのだろう。 ・青は"blue"で、かっこいいは"cool"でというのだな。"and"でつなげて言ってみようかな。 ・他の友達からは、「スケートボードは楽しいの？」と聞かれたぞ。楽しいということも付け足して、発表してみようかな。 ・「かっこいい」、「楽しい」を付け足して、もう一度発表をして、友達に聞いてもらおう。 ・友達はゲームの発表をしていたぞ。ゲームは楽しいか聞いてみよう。 ・ゲームが楽しいということも付け足してもう一度発表をしてもらおう。やっぱり楽しさが伝わったほうが分かりやすいな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・色や、「かっこいい」、「楽しい」という特徴を付け足して、分かりやすく発表をできるようになったぞ。（目的を達成した意識） </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の持ち物の発表をする際に用いる英語表現を想起できるように、持ち物の特徴に関する英語表現を問いかける。 ○友達からの反応を得て英語表現を加えられるように、グループ内で持ち物の発表をするよう促す。 ○発表に用いたい特徴を表す英語表現の発音を想起したり、知ったりできるように、必要に応じてALTに単語や発音を尋ねるよう促す。 ○持ち物の特徴を表す英語表現の選択・組合せができるように、形容詞の一覧表を提示し、自分の紹介に用いたい表現を問いかける。 ○グループの友達からの質問やアドバイスを基に、自分の持ち物の特徴を加えられたことを実感できるように、発表構想シートに加えた情報を記述するよう促す。 ○ALTに持ち物の特徴が伝わるように、友達のことをALTだと想定し、繰り返し自分の持ち物の発表をし、質問や助言を得るように促す。 ○友達の発表に対して、反応する内容を見付けられるように、「ALTが知りたい特徴」という改善の視点で友達の発表を聞くよう促す。 ○自分の持ち物の発表をする英語表現に自信がもてるように、特徴を加えている児童を称賛する。
<p>3 本時の学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と発表をし合ったり、質問をし合ったりして、自分たちの発表を分かりやすくできたね。 ・次は、ギャヴィン先生に自分のことをもっと知ってもらえるように、アイコンタクトをとりながら発表をしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の持ち物の発表をする際の英語表現を改善できたことを実感できるように、自分のめあての達成度を振り返り、「できたことや分かったこと」を視点として、Tryシートに記述するよう促す。 ○次時の学習への意欲を高められるように、Tryシートの「もっと自分に必要なこと」について学級全体で共有し、次時の課題について問いかける。